

## 長崎県対馬に漂着したタカラガイ類とイモガイ類 (巻貝綱)

久保田 信<sup>1)</sup>*Cypraea* and *Conus* (Gastropoda) stranded on beaches at Tsushima Island,  
Nagasaki Prefecture, JapanShin KUBOTA<sup>1)</sup>

**要約** 2012年1月中旬に長崎県対馬の11箇所の礫・砂浜に打ち上げられたタカラガイ類とイモガイ類の調査を実施した。調査地点の8箇所で計8種のタカラガイ類と1種のイモガイ類を採集した。この記録と長崎県の3島嶼である男女群島、五島列島、壱岐およびその近郊海域の天草と福岡に産するこれら2分類群の分布記録を比較した。

**Abstract** : Eight species of *Cypraea* and only one species of *Conus* was stranded on eight out of 11 beaches around the Tsushima Island, Nagasaki Prefecture, Japan in January 2012. Distribution of these two genera on various islands off northern Kyushu, Amakusa and Fukuoka is compared.

**Keywords** : distribution, tropical gastropods, stranding, Nagasaki Prefecture, island

## はじめに

南方系の巻貝として代表的なタカラガイ類とイモガイ類は、我が国沿岸を洗う黒潮と対馬暖流の影響を受け、多種が分布するものの、北方へ行くほど分布種数が減少することがよく知られている (Kawakami and Habe, 1961; 波部・小菅, 1967; 西村, 1981)。対馬暖流域に沿う長崎県の沖合に浮かぶ4島嶼およびその近郊海域は南北に連なり、各島嶼・海域でのこれら2群の分布差が比較的明瞭にみられる (山本ほか, 1973; 松林ほか, 1977; 松林・山本, 1981; 松林, 1991)。今回、2012年1月に対馬の海岸を一周し、打ち上げられたタカラガイ類とイモガイ類の全個体を収集したので、その結果を報告するとともに、九州北部に浮かぶ複数の島嶼とその近郊海域に産するこれらの貝類相の相違を比較した。

## 材料と方法

2012年1月13日から3日間、対馬に所在するほとんどの礫・砂浜において打ち上げられたタカラガイ類とイモガイ類を調査した (図1)。11箇所の各地点で、数十m~数百mの満潮線と波打ち際を歩き発見できた上記2分類群の全個体を収集した。その結果を報告するとともに、これまでの報告 (Kawakami and Habe, 1961; 山本ほか, 1973; 松林ほか, 1977; 松林・山本, 1981; 西村, 1981; 松林, 1991) と比較し、分布に何らかの差があるのか検討した。

## 結 果

対馬を一周する11箇所の礫・砂浜で調査した結果、その内の8箇所でタカラガイ類とイモガイ類を発見した。各地点の打上物から採取されたタカラガイ類とイモガイ類の種類と個体数を

<sup>1)</sup>〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所

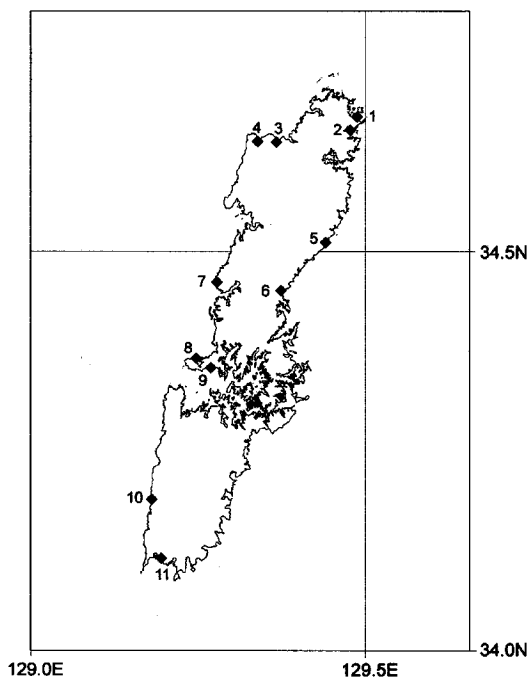


図1. 長崎県対馬におけるタカラガイ類とイモガイ類の漂着調査地点

表1にまとめた。島全体で計8種39個体のタカラガイ類 (*Cypraea (Erosaria) labrolineata* Gaskoin, 1849 オミナエシダカラ, *C. (E.) helvola helvola* Linnaeus, 1758 カモンダカラ, *C. (E.) moneta* Linnaeus, 1758 キイロダカラ, *C. (E.) erosa* Linnaeus, 1758 コモンダカラ, *C. (Palmadusta) artuffeli* Jousseau, 1876 チャイロキヌタ, *C. (E.) caputserpentis caputserpentis* Linnaeus, 1758

ハナマルユキ, *C. (Lynchina) vitellus* Linnaeus, 1758 ホシキヌタ, *C. (Purpuradusta) gracilis* Gaskoin, 1848 メダカラ) と1種2個体のイモガイ類 (*Conus (Chelyconus) fulmen* Reeve, 1843 ベッコウイモ) が収集できた。浅茅湾口付近と島のそれより北側の東西の海岸でこれらの貝殻が見つかったが、対馬の南側の海岸からは、両分類群は全く見つからなかった。1地点当たり、最多で4種のタカラガイ類と1種のイモガイ類が漂着していたが、どの地点でも2群の個体数は少なく、最多で両者をあわせて12個体であった。多くの地点で打ち上がっていたのはハナマルユキで、複数個体数のことが多く、最多種であった。

### 考 察

今回採取されたタカラガイ類とイモガイ類のいずれの種も対馬より南方の長崎県の島嶼およびその近郊の九州西部海域から報告されている種であった。各島嶼に分布する2分類群の種数を比較すると、天草を除き、北へいくほど種数が減っていることが確認され、この傾向はイモガイ類の方が顕著であるといえる(表2)。今回の打ち上げ調査からは昨今の地球温暖化に伴う北方域でのタカラガイ類とイモガイ類の種数の増加はまだ生じていないと推察される。

表1. 対馬の礫・砂浜でのタカラガイ類とイモガイ類の漂着記録

地点	タカラガイ類の種と個数	イモガイ類の種と個数	調査年/月/日
1. 三宇田浜	チャイロキヌタ1, ハナマルユキ1, ?ハナマルユキ幼貝1, メダカラ2	なし	2012/1/14
2. 西泊浜	なし	なし	2012/1/14
3. 井口浜	ハナマルユキ1	なし	2012/1/14
4. 湊浜	コモンダカラ1, ハナマルユキ1	なし	2012/1/14
5. 小鹿	なし	なし	2012/1/14
6. 佐賀	ハナマルユキ6, ホシキヌタ6	ベッコウイモ1	2012/1/14
7. 木坂	ハナマルユキ2, ホシキヌタ2	なし	2012/1/15
8. 廻	カモンダカラ1, ハナマルユキ6	なし	2012/1/15
9. 水崎	オミナエシダカラ1, キイロダカラ1, ハナマルユキ9, ホシキヌタ1	ベッコウイモ1	2012/1/15
10. 上槻	なし	なし	2012/1/13
11. 板形浜	なし	なし	2012/1/13

表2. 長崎県の沖合の4島嶼およびその近郊海域に分布するタカラガイ類とイモガイ類の種数

	タカラガイの種数	イモガイ類の種数	引用文献
対馬	12	2	松林・山本, 1981; 本研究
壱岐	15	1	松林ほか, 1977; 松林, 1991
五島列島	10	4	松林・山本, 1981
男女群島	11	9	山本ほか, 1973; 松林, 1991
福岡	15	8	Kawakami & Habe, 1961
天草	16	3	Kawakami & Habe, 1961

### 謝辞

本研究をまとめるにあたり, 文献のご教示を頂き原稿を読んで頂いた和歌山県白浜町在住の湊宏博士と原稿を読んで頂いた長崎大学の中西弘樹教授に深謝致します。

### 文 献

波部忠重・小菅貞男 1967. 標準原色図鑑全集 3, 頁. 223pp., 保育社, 大阪.

Kawakami, I. and Habe, T. 1961. The characteristic aspects of the molluscan fauna in the west coast of Kyushu, Japan. *Rec. Oceanogr. Works Jap., Spec.* (5): 195-197.

松林金造 1991. 長崎県のタカラガイ. 長崎県

生物学会誌 (38, 39): 39-42.

松林金造・山本愛三・遠藤義文・大塚尚・久保堅児・久保卓児・島田健吾・成毛光之・林敏雄・山本賢一 1977. 壱岐の海産貝類 *In* 長崎生物学会(編) 壱岐の生物, 477-504.

松林金造・山本愛三 1991. 五島沿岸貝類の壱岐・対馬との対比 *In* 長崎生物学会(編) 五島の生物, 509-542.

西村三郎 1981. 地球の海と生命. 284pp., 海鳴社, 東京.

山本愛三・松林金造・肥後俊一・寺田三郎 1973. 男女群島海産軟体動物目録. *In* 長崎生物学会(編) 男女群島の生物, 160-181.